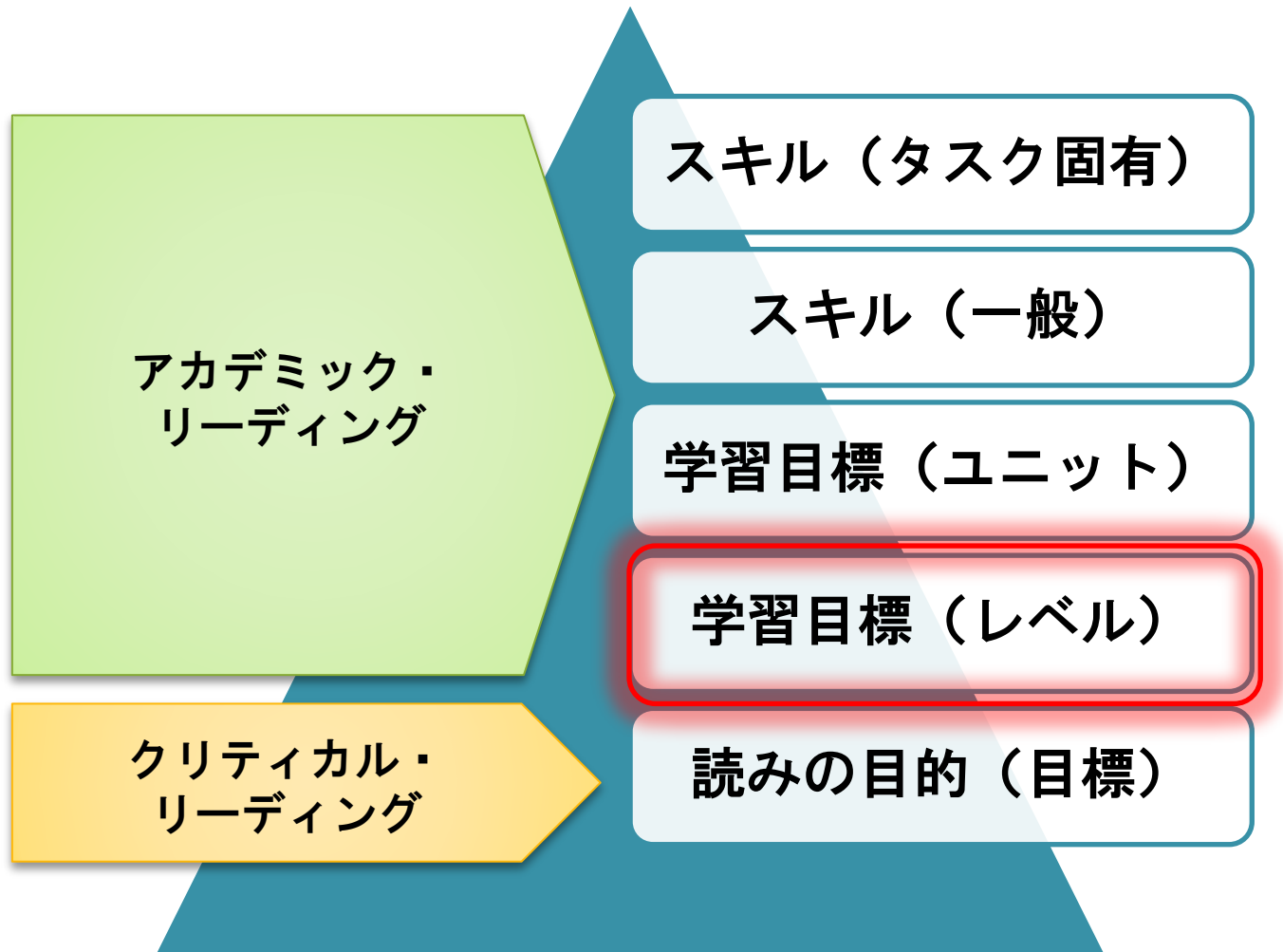


ワークショップ
授業実践の共有を通じた
学びあい・その方法
セッション3
読解授業の実践共有

2013年8月7日
丸山友子（コミュニケーション学院）

タスク・スキル・学習目標



授業（クラス概要・コースデザイン）※【資料1】

対象	中級～中級後半（CEFRならB1レベル）
目的（属性）	進学、就職、スキルアップなど
期間	約3か月
授業コマ数	1ユニットにつき2～3コマ（100～150分）
教材	11ユニットの読解テキスト
学習目標	・ 1000～1500字程度の比較的身近なテーマのコラム・エッセイ・伝記・対話を読んで、事実関係や物事の経緯、筆者の主張や意図が把握できる。 ・ 新聞・雑誌のコラムや解説文、教養書を読んで、詳細な事実関係や現状、展望、背景、因果関係、理由、根拠などが把握できる。

テキスト[原文]

「世界の経済―塗り替えられる経済地図」

※資料 2

世界の経済はいったいどうなっていくのだろうか。この難題を考えるとき、次のように整理してみるのも有効かもしれない。経済活動のもっとも基本となるものを「5つの資源」に分類してみるのである。

第1は、「鉱物資源」である。石炭や石油、鉄鉱石などである。

第2は、「農作物資源」である・・・

問題[本文]

「世界の経済―塗り替えられる経済地図」

※資料 4

1

第1は、「（ ① ）」である。石炭や石油、鉄鉱石などである。

第2は、「（ ② ）」である・・・

学習者の読み（改善前）

※資料6

1. 文中の空欄アに入るものとして、最も適当なものを次から選びなさい。

- ① BRICs4カ国がベスト10にちゃんと入っている。 **（正解）**
- ② やはり上位を占めているのは、欧米諸国である。
- ③ 日本はそれでも3位と、依然として上位にある。
- ④ ブラジル、ロシアはイタリアよりも順位が低い。

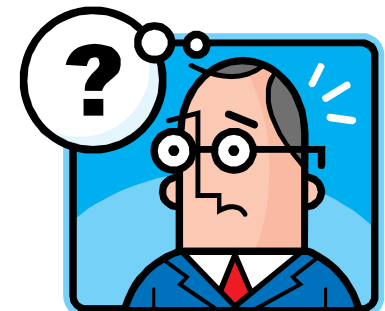
学習者：②③④を選択

教師：「空欄アの前のところを読んで。欧米や日本が強い話じゃないでしょう。中国が延びてきたっていう話でしょう？」

学習者：ああ・・・。



学習者は腑に落ちていない様子



私たちの疑問（問題意識・背景）

- ①学習者はどこでつまづいているのだろうか？
- ②教師の解説を聞いて、学習者にアカデミック読みの力がつくのか？
- ③ここでこの問題が解けることは、何がわかった（できた）ことになるのだろうか？

◆アカデミックな読みの力とは…

「テキストに沿いつつ、筆者の意図を正確に読み解く力」

◆アカデミック…主張性 & 論理 & 内容の質

挑戦

- ①タスクを脳の処理のタイプ別によって分ければ、学習者が意識して課題処理できるのではないか。
- ②アカデミックな読みのスキルを特定し、タスクと結び付ければ、読みの力を伸ばすことができるのではないか。
- ③自己評価で、自分の読みをメタ認知できないだろうか。

実践活動のアイデア

- ① ・ タスクを言語処理（言語タスク）と認知処理（認知タスク）に分ける。
- ② ・ アカデミックな読みのスキルを特定する。
例）論点を把握する 比較・対照する etc…
 - ・ タスクごとにスキルを特定して明示する。
 - ・ 学習目標とタスクごとのスキルを結びつけて明示する。
- ③ ・ スキルの自己評価チェックリストを作成する。（各ユニットと全ユニット一覧）

読み教材作成のプロセス

1. 本校シラバス⇒学生が遭遇しうるテキストタイプ、ジャンル洗い出し⇒中級レベルの読み素材テキストの収集
- 2-1 到達目標（Can-do statements）の設定⇒下位スキルの選択⇒①認知処理②言語知識を問うタスク作成
- 2-2 読みの認知処理過程（処理のタイプ、ワーキングメモリー/記憶/思考における言語の役割）の勉強会
3. 担当クルー間で達成目標とタスクとの整合チェック
授業で試用⇒学生の反応：授業担当者フィードバック⇒タスク改訂
4. 素材テキストごとの到達目標⇒同種のテキストタイプ、ジャンルごとの到達目標の整理⇒中級レベルの「読み」の到達目標の完成

授業（授業の実施） ※【資料1】

クラス	Step4
学習目標	①一般的なテーマの新聞・雑誌のコラムや解説文、一般向けの教養書を読んで、詳細な事実関係や現状、展望、背景、因果関係、理由、根拠などが把握できる ②一般向けの解説文を読んで、事実関係、背景、方法、原因、理由などが把握できる
テキスト	『100文字でわかる世界地図』 橋本五郎
テーマ	世界の経済地図の変化
テキストタイプ	一般向けの経済解説書の一節
タスク	世界の経済地図がどう変わったかを把握する
進め方	1. 読む前に（先行オーガナイザー） 2. 学習目標の確認 3. 全体把握（ざっと読む） 4. 精読〔タスク〕 5. テキストの内容についての感想述べ、ディスカッション等

授業（授業の実施） ※【資料１】

クラス	Step4
学習目標	①一般的なテーマの新聞・雑誌のコラムや解説文、一般向けの教養書を読んで、詳細な事実関係や現状、展望、背景、因果関係、理由、根拠などが把握できる ②一般向けの解説文を読んで、事実関係、背景、方法、原因、理由などが把握できる
テキスト	『100文字でわかる世界地図』 橋本五郎
テーマ	世界の経済地図の変化
テキストタイプ	一般向けの経済解説書の一節
タスク	世界の経済地図がどう変わったかを把握する
進め方	1. 読む前に（先行オーガナイザー） 2. 学習目標とスキルの確認 3. 全体把握（メタ・コンテンツの把握） 4. 言語タスク 5. 認知タスク 6. 自己評価①（各ユニット固有のスキルのチェック） 7. 自己評価②（スキルチェック一覧）

学習者の読み（改善後）

■認知タスク■

論点を把握する

論理展開を予測・把握する

※資料6

1. 文中の空欄アに入るものとして、最も適当なものを次から選びなさい。

- ① BRICs4カ国がベスト10にちゃんと入っている。（正解）
- ② やはり上位を占めているのは、欧米諸国である。
- ③ 日本はそれでも3位と、依然として上位にある。
- ④ ブラジル、ロシアはイタリアよりも順位が低い。

教師：（誤答を選んでいる学習者に）どこを読んで③にした？

学習者：（アの）前…。

教師：ここは言語タスク？認知タスク？

学習者：認知タスク。

教師：そうね。じゃ、スキルは？ このテキストの論点は何？
筆者は日本が上位にあるということが言いたいのか？

学習者：いいえ。中国とかインドとかのこと。



挑戦

- ①タスクを脳の処理のタイプ別によって分けられ、学習者が意識して課題処理できるのではないか。
- ②アカデミックな読みのスキルを特定し、タスクと結び付けられれば、読みの力を伸ばすことができるのではないか。
- ③自己評価で、自分の読みをメタ認知できないだろうか。

うまくいったこと

- ①タスクを脳の処理のタイプ別によって分け
れば、学習者が意識して課題処理できるの
ではないか。

⇒学習者が意識できるようになった

- ②アカデミックな読みのスキルを特定し、タ
スクと結び付ければ、読みの力を伸ばすこ
とができるのではないか。

⇒タスクとスキルを結び付けて考えられるようになった。
読みの力の伸びを実感できた学習者もいた。

- ③自己評価で、自分の読みをメタ認知できな
いだろうか。

⇒自分の得意・不得意なスキルがメタ認知できるようになった

うまくいかなかったこと

- ①タスクを脳の処理のタイプ別によって分け
れば、学習者が意識して課題処理できるの
ではないか。

⇒意識はできても、認知処理のタスクを言語処理で
考えてしまう。

- ②アカデミックな読みのスキルを特定し、タ
スクと結び付ければ、読みの力を伸ばすこ
とができるのではないか。

⇒明示したスキルを見ていない学習者がいた。
(注意配分がうまくできていない)

- ③自己評価で、自分の読みをメタ認知できな
いだろうか。

見出された今後の課題

- タスクの処理のタイプを明示していない場合でも、学習者自身がどちらの処理が必要か判断する力がついたかどうかの検証
- スキルを明示していない場合でも推測し、タスクができるかどうかの検証

タスク・スキル・学習目標

8 段落から 10 段落前半を受けて、あとに続く内容を予測する。

- ・ メタ・コンテンツを把握する
- ・ 論点を把握する
- ・ 論理展開を予測・把握する
- ・ 明示的な主張・意図を把握する
- ・ 空間的・時間的順序を把握する
- ・ 構造・法則性を把握する
- ・ 複数の情報を関連付ける

世界の経済地図がどう変わったかを把握する。

1. 1000~1500字程度の比較的身近なテーマのコラム・エッセイ・伝記・対話を読んで、事実関係や物事の経緯、筆者の主張や意図が把握できる。
2. 新聞・雑誌のコラムや解説文、教養書を読んで、詳細な事実関係や現状、展望、背景、因果関係、理由、根拠などが把握できる。

日本語の読みを通して、主体的に世界、社会、他者、自己と創造的に関わる知識・技能・態度を身につける。